

# 国際交流助成事業報告書

薬学部 1年次 北村 健

3月4日の夜、私は関西国際空港を飛び立った。目的地はオーストラリアのゴールドコースト。世界でも有数のサーフスポットである。これから二週間そこに滞在するのだ。正直なところ、英語にはあまり自信がない。でも気持ちで何とかなるんじゃないかとか、飛行機で考えていた。どんな素敵な出会いがあるのだろうか。どんなことが待ち受けているだろう。次の日の昼いろいろなワクワクを胸に私はゴールドコースト空港に到着した。

## ホストファミリーとの出会い

空港に到着して入国審査を終えると早速二週間通う TAFE(日本でいうところの職業専門学校)に向かった。到着後すこしオリエンテーションがあったのち、ちょっとしたウェルカムセレモニーが行われた。みんなでおかしなどをほおぼっていたとき、ひときわ体の大きい男性とかわいらしい男の子の親子がやってきた。男の子のほうは恥ずかしそうにお父さんにずっと引っ付いている。私のことを見つけるとすぐに豪快に握手をされ、その足でみんなと海に行ったあとラグビーしたあとに、外でBBQをするという初日からオーストラリア全開であった。



## アーチャー

Somerville 一家の末っ子。天使的なかわいさを持つが、わがままですぐ甘えてくる典型的な末っ子。家族はいつもアーチャーに振り回されている。いつも私の膝にちょこっと座ってくるし、手を繋いでくる。帰国前日には帰らないでくれとせがみ号泣。やんちゃだが憎めない、一家の癒し担当。

## Somerville 一家

私のホームステイ先の家族。父ブルース、母アンダーソン、兄ドゥーゴー、弟アーチーの四人家族。ゴールドコーストから南に30kmほど離れた、海辺の町カジュライナに住んでいる。父ブルースは専業主夫とエンジニアの二つを掛け持つスーパーマン。家事、育児、仕事、ラグビー、遊び、そして私のホームステイの全てを完璧にこなす彼を私は大いに尊敬している。彼から学んだ人生観などは私のこの留学の宝物の一つである。母アンダーソンは平日はシドニーの大企業に勤めており、週末だけ家族と過ごしている。趣味はマラソンでゴールドコーストマラソンで2位に食い込むほどのアスリート。兄ドゥーゴーは小学一年生には見えない落ち着きを見せる六歳児。朝6時から一人でおままごとするストイックな性格。ラグビーもやっているがあまり好きではなさそう。弟アーチーは天真爛漫の四歳児。この留学で最も別れるのが恋しかった。

## みんな気さく

オーストラリアではよくあることらしいが、皆すれ違うごとに微笑んでくれるし、挨拶もしてくれる。明らかに欧米人ではない私にもフレンドリーに接してくれるし、拙い英語でもなんとか理解しようとしてくれる。なんというか言葉の壁は感じたが、人種の壁は感じられず皆暖かく私たち日本人を受け入れてくれた。ホストファザーのブルースといるとよく感じられたのが全然知らない人とあたかも知り合いのように喋り掛けるのだ。カフェで隣に座ってた夫婦、駐車場でベビーカーを押していた若いお母さん、理髪店で先に髪を切っていた人、最初は皆知り合いだと思っていたがだんだんただ単にブルースが喋りかけていただけなことがわかってきた。帰国してから知ったことだが欧米圏では隣に座った人など何かしらで一緒になった人には話しかけないと失礼にあたるようだ。

## 人生の楽しみ方

「Take は土曜の夜は何をしているんだ？」学校の帰り道にこんなことを聞かれた。わたしは一瞬答えるのに戸惑った。アルバイトをしているか、ゴロゴロしているか、、、たぶん何もしていないことが多い。わたしはブルースに決まっていないと答えるととても残念な顔をしてわたしにこういった「それはもったいなさすぎる。土曜日の夜こそ自分の好きなことをするのに最高の時間だよ」確かに彼は土曜日の夜を最高に楽しんでいる。大好きなカヤックをしたり、ラグビーをしたり、見たり。それが終わればお店でピザを買って帰るか家でBBQをする。そして寝る前に映画を見て寝る。本当にエンジョイしている。だが彼はこの土曜日の夜を楽しむ努力を決して惜しまない。彼は平日の間にやるべきことを全て終わらせる。だから彼の平日は本当に忙しく、休む暇がない。時間を有効活用させている。わたしは彼に人生を楽しく生きる秘訣を聞いた。彼は満面の笑みで答えた『Work hard, Play hard』と。わたしは彼が大好きになった。

## 研修について

### 薬局への訪問

平日の午後に私たちはクイズランド州の日本でいうところのいわゆる処方箋薬局を訪れた。ショッピングセンターに併設されており人の流れは十分だった。となりのクリニックと連携して地域の医療を担っていると聞いた。まず外観であるが、日本の調剤薬局よりはもっと敷居が低く食料品や化粧品、なかにはオーストラリアらしくサングラスなども販売していたのでどちらかと言うとドラッグストアに近い雰囲気だった。調剤カウンターから奥に行くにつれて薬の重要度が下がっていくように配置しており、サイドには栄養食品などが陳列されていた。薬剤師といえば白衣のイメージだが男性の薬剤師のなかにスーツにネクタイのスタイルで勤務している人もおり、全体的に和やかなムードの薬局だった。

### グリフィズ大学薬学部への訪問

ニューサウスウェールズ州のゴールドコーストにオーストラリアでもトップテンに入るグリフィズ大学がある。ここはニューサウスウェールズでもトップクラスの総合大学で広大な敷地に13学部がひしめいている。医療系の学部も揃っている。ここでは調剤室の紹介や研究内容のプレゼン、実際の調剤を体験してみるなどをした。日本の薬学とはすこし雰囲気の違うところなどを体感できて満足だった。

### 薬学の授業について

体験授業がない午後はオーストラリアにおける薬学や薬にまつわる英語などを学んだ。医薬品の分類や簡単な薬学用語の英語を学んだり、ポスターを書いたりして楽しみながら日本とは異なる薬学について学ぶことができました。先生もとてもかわいらしく気さくなかただったので積極的に授業を受けて、楽しみながら学習をすることができました。